

を脅かすような深刻な事態をもたらし、水俣病などのような非惨な結果を生み出している。このことは、政府および企業の責任であることは言うまでもない。同時に人類に対する危険を明らかにするような研究が十分でなかったことおよびその成果が活かされていなかったことも無関係ではない。

科学技術の成果は人類共通の財産であり、その成果の公開は科学技術の進歩と人類に及ぼす災害の防止のためにいよいよその重要性を増してきた。

われわれ科学者は、科学の成果は平和と人類の福祉増進のために役立てられなければならないという基本原則に立って、科学者の自主性を堅持するとともに、あらゆる科学の専門領域を越えて国内・国際的交流を強め、環境破壊の問題と対処しなければならない。また、従来われわれ科学者が、自然科学、人文・社会科学を問わず、その専門領域における成果を追うのあまり、国民の健全な生活を守ることを最優先するという立場を忘れ、科学の総合的把握に欠けるところのあったことを強く反省し、科学者の社会的責任について改めて思いをいたさなければならない。

われわれは、ここに公害の根絶を願う国民の立場に立って公害防止に貢献する科学技術の向上に努め、科学者の組織の結集の上に立って、この問題の解決に当たりたいと考える。

この立場に立って、全科学者に対し、われわれと共に公害問題に関する調査、研究への積極的な取り組み、さらに進んで公害に関する総合的・全国的な研究組織の創設とその成果を産業および国民生活へ反映・浸透させるための努力など、いっそう強力に進めていくことを広く訴えるものである。

8-28

昭和45年10月23日

沖縄の自然保護と文化遺産の保存について(声明)

第57回総会

沖縄は日本列島の最南部に位置し、国内的にはもとより世界的にも貴重な自然と文化遺産を豊かにもつ地域である。

しかるに、第2次世界大戦における戦場として、またその後は米軍占領下の軍事基地として、さらに急速な産業開発と生活様式の変動に伴って、これらの自然と文化遺産の多くは大きく破壊されている。今後さらにこのような破壊がいっそう進むならば、とり返しのつかない結果を生ずるおそれがある。

われわれはこのような事態を深く憂慮し、すべての関係機関が必要な措置を早急にとられることを要望するとともに、今後の推移に重大な関心をもつものであることを表明する。